

「ESD-J2030 年に向けた活動計画」を策定しました！



ESD-Jは、2019年に「SDGs達成に貢献するESD-Jのビジョンとミッション」を作成しましたが、ESD for 2030の枠組みの中で改めてESD-Jが果たすべき役割の明確化、そして定量的、定性的な指標を設定した中長期目標を策定することが必要と考えました。そして、会員の皆様のご意見を頂きながら、下記の「2030年に向けたESD-J活動戦略」を作成いたしました。

<2030年に向けたESD-J活動計画>

**ESD-Jとして2030年に実現したい社会の姿は、
あらゆる学びの場でESD実践の質と量が高まっている状態です。**

- ・あらゆる学びの場 = 学校教育だけでなく、地域、企業、家庭なども含む。子どもからシニアまであらゆる世代
- ・ESD実践の質 = 各個人の行動変容や、社会参画、社会変革を可能にする実践
- ・ESD実践の量 = 実践が行われている場の拡大と回数及び関わる人の増加

以下が2030年に実現したい社会の姿を達成するための目標と指標です。

目標1 地域におけるESDの実践・実践者・支援者を広げる

指標1：2030年までに個人会員を250名、団体会員を95団体、賛助会員を12件に増やす。（基準値：R3.8.1現在個人120、団体52、賛助5）

指標2：2030年時点でESD-Jの研修会等やESD-Jに関わる各種事業（後援含む）への参加者を年間1,000名程度に増やす。

指標3：2030年までにESD-J認定のESD推進コーディネーターを少なくとも各ブロックに10名、80名以上育成する。（※ブロック：北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）

目標2 行政、企業等との対話をもとに、政策提言・事業提案を行い、目指すべき方向性を示す

（※「提言」との用語には、「政策提言」「事業提案」だけでなく、社会へ向けた声明やアドボカシー活動を含むものとする。）

指標4：ESDやSDGsに関わる提言を実施（気候変動・生物多様性・防災・災害・ジェンダー・多文化共生等に関わる国内外の教育施策、国内実施計画、SDGs施策）

目標3 国内の実践に活かせる国際的な情報発信、国内情報の海外発信と連携促進

指標5：2030年まで、70件以上/年実施する（50件は国連、国際NGO・NPO、国際会議、イベント等の情報、20件は主に海外のSDGs達成状況の情報提供や、ESD実践状況、ESD事例・プログラムの紹介、国内事業に有効な国際情報の解説等）

指標6：アジアNGOネットワーク（ANNE）をベースにした国際事業の実施を目指した検討会を年間2-3回実施し、事業化する。

目標4 会員のニーズにきちんと応えるため組織基盤を強化する

指標7：2030年まで、毎年会員の満足度90%を維持（ESD-Jの組織への満足度、ESD-Jの活動の社会への影響度の満足度 等）

目標達成のために **ESD-J が実施する事業と具体的な活動**の要旨は以下の通りです。

目標達成のために実施する事業

② 事業の企画・運営：

◆ 人材育成事業：

地域の実情に合ったESDの取組を広めていくため、実践者と連携・協働して、ESDやSDGsを普及するとともに、コーディネーター等、地域でSDGs、ESDを推進するための中核になる人材を育成します。

具体的には、オンライン研修の実施、ESDの基本的な理解を広めるESD入門の研修の支援、全国規模のコーディネーター研修・フォーラム等を実施します。

◆ 政策提言事業：

ESD-J会員や地域の声を把握し、ESDやSDGsに関する事業に取り組み、政策や制度に関わる提言を行います。

具体的には、環境省・文部科学省など関係省庁への提言活動、ESD議連及び地方議員へのロビー活動（選挙の際の政党への質問書の提出、政策対話の実施等）を行います。

◆ 国際連携事業：

アジアNGOネットワーク（ANNE）をはじめとする海外とのESD推進ネットワークを構築・強化し、有益な情報収集発信を行います。ESD-Jが発信する情報を通じて、国際社会と交流できる人材、国際的な舞台に出ていく人材を育成します。

具体的には、海外との情報の相互発信と学び合い、国内における関係者とのグループ形成の検討（海外との交流のある団体、大学生含む）等を行います。

事業の実施を支える

◆ ネットワークの構築と活用、強化：

- ① 人材育成、政策提言、国際連携を支えます。
- ② 会員相互の交流の促進、エンパワーメント特にユース団体とのネットワークの構築に注力します。

◆ 調査研究

具体的には、学校教育におけるESD取組の課題把握、多様な主体によるSDGs取組の状況把握と課題抽出等を行います。

◆ 情報収集と提供

具体的には、国際社会の課題のピックアップと、それへのESD的解説、国際ムーブメントとして参画可能な情報の収集と参加、国内外のSDGs達成状況の情報や、ESD実践状況、SDGs/ESD事例・プログラムの紹介等を行います。

◆ パートナーシップ：他団体と連携しながら、事業を進めます

ESD-J のこれまでの活動と成果

【沿革】

2002年のヨハネスブルグサミット（持続可能な開発に関する世界首脳会議）において、日本はNGOと政府が共同して、持続可能な社会を実現するために世界中で人づくりに取り組むことを提案しました。これを受け、「国連持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」が国連総会で決議され、2005～2014年にかけて世界的な人づくりキャンペーンが行われました。国連持続可能な開発のための教育の10年推進会議（ESD-Jの当時の名称）は、ESDの10年を市民社会の立場から推進することを目的として2003年に設立された、国内外でESDを推進するためのマルチステークホルダーのネットワーク団体です。

【ESDの10年（2005～2014年）における主な活動】

ESD-Jは、ESDの10年の立ち上げに際し、日本政府に対してESDの推進体制づくりを働きかけ、世界に先駆けてESDに関する関係省庁連絡会議（2005年）、マルチステークホルダーによるESD推進のための円卓会議（2007年）などの設置を実現しました。また、2006年3月に作成された「国連ESDの10年国内実施計画」の策定にも様々なインプットを行うことにより、大きく貢献しました。



ESDの10年の期間においては、全国各地で先進的なESDモデル事業を展開するとともに、ESD関係の活動に関するデータベース構築事業、生物多様性×ESD事業などを推進しました。2014年に岡山と愛知・名古屋で開かれたESDの10年最終年會合においては、地球市民會議と共催で公開サイドイベントを開催し、ESDの10年を市民社会、企業等の立場から総括するとともに、「ポストESDの10年」に向けた13の提言をとりまとめた「地域が牽引するこれからのESD」報告書を公表し、ESDナショナルセンターの設立や広域レベルのESD推進拠点による地域のESD支援などを提唱しました。

2015年には、ESD-Jの設立からESDの10年終了時までの記録をまとめた『市民社会からの挑戦 -ESD推進12年間の軌跡』ESD-J活動報告書（2003～2015）』を作成・公表しています。

【国際的な活動】

国際的には、2005年にインドのアーメダバードで開かれた国連ESDの10年開始式典に際し、アジアのNGOによるESD推進ネットワークを立ち上げるとのアーメダバード宣言を取りまとめるとともに、2006～2008年にかけて「アジアESD推進事業（AGEPP）」を実施し、中国、インド、インドネシア、フィリピン、韓国、及び日本の6か国で30以上の持続可能な社会づくりに関する優良事例を取りまとめ文書化したほか、2008年に北海道で開かれた洞爺湖サミット、2010年に名古屋で開かれた「生物多様性条約第10回締約国会議」、2012年にブラジル・リオで開かれた「リオ+20」等に際してサイドイベントを開催し、ESDに関するアジア市民の声を提言として発表しました。2014年に開かれたESDの10年最終年會合に際しては、「ESDに関するアジアのNGOネットワーク（ANNE）」の開始式典を行い、2014～2015年にかけて、ANNE事業としてインドのGram Nidi地域を対象とする「生物多様性を踏まえたアジアの持続可能な農山漁村社会の形成事業」を行いました。

【グローバル・アクション・プログラム(GAP)期間（2015～2019年）における活動】

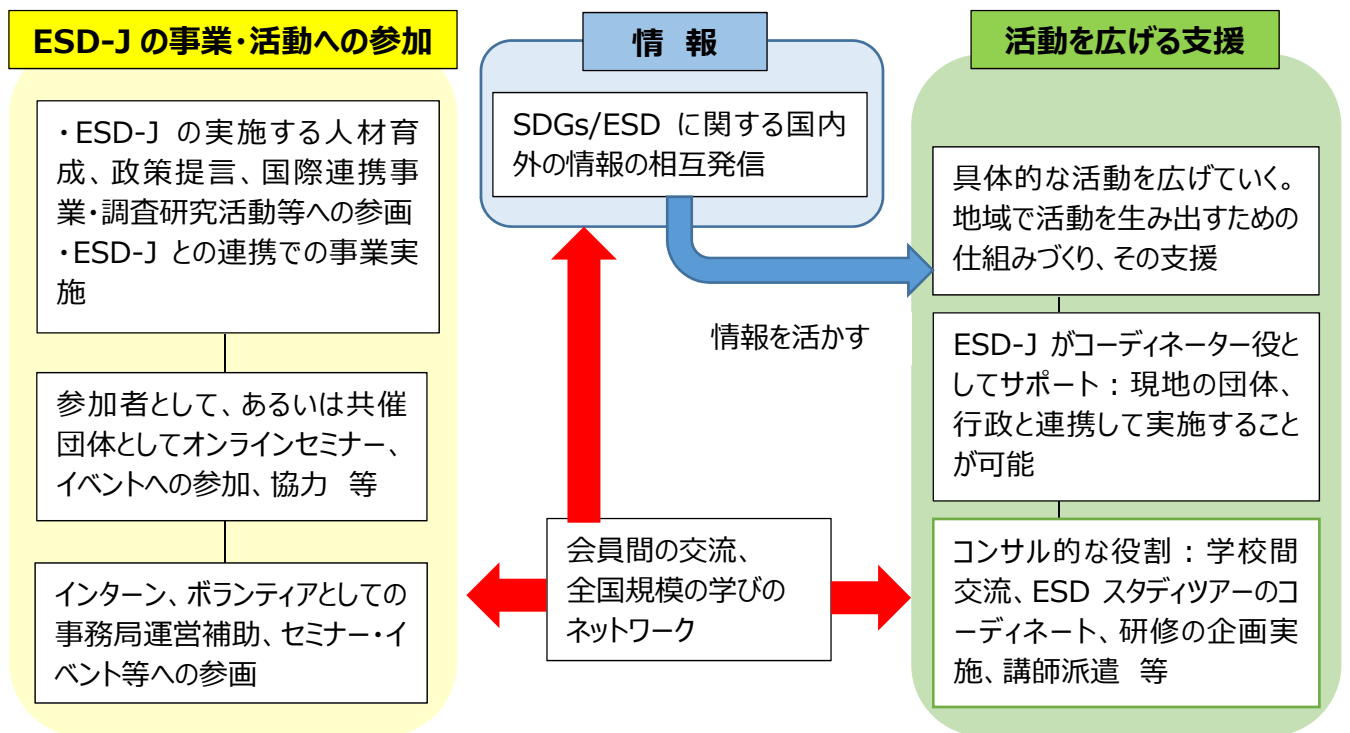
ESD-Jの名称を「持続可能な開発のための教育推進会議」に変更しました。GAP期間における最大の成果は、ESD-Jが提言したESD推進ネットワークが構築されたことです。環境省と文部科学省により、2016年4月にESD活動支援センター（全国センター）が開設され、2017年7～9月にかけてESD活動支援センター（地方センター）が開設されました。また、同年11月からは地域でのESD活動を支援するための「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」の登録が始まりました。ESD-Jは、2016～2019年度にかけて、ESD活動支援センター（全国センター）の運営を請け負い、ESD推進ネットワークの基盤を構築しました。その他、国際的にはANNE活動を継続するとともに、アジアでの教員養成プロジェクトへの貢献、2019年にバンコクで開かれた第10回世界環境教育會議での発表等を行いました。

【ESD for 2030（2020～2030年） - ESDの新たな展開に向けて -】

ESD-Jは、ESDが、SDGsの全てのゴールの達成に向けた人づくりを担う活動であるとの認識の下、日本政府に対して第2期国内実施計画の策定・実施に関する各種提言を行うとともに、ESD-Jとしての中長期計画や体制の見直しを行い、さらなるESDの推進に取り組むこととしています。



ESD-J の仲間になりませんか！



<市民・市民団体の皆様>

- ・ESD-J が実施する活動・事業への協力、参画
- ・ESD-J が実施する政策提言活動への参画、意見提出
- ・会員メーリングリスト、ESD-Jウェブサイト、メールマガジン、Facebook、Instagram、Twitter 等 SNS を通じた情報の受発信、イベント、セミナー等の告知の機会・ツールを得られる
- ・国内外の最新の ESD の動向、ESD 関連イベントの情報が得られる
- ・セミナー、イベント、交流会など情報交換、ネットワークを広げる機会を得られる

<学校・教育関係者の皆様>

- ・ESD/SDGs に関する教員研修の企画相談、講師派遣依頼
- ・ESD/SDGs を学ぶための学校のカリキュラム・ESD の評価の仕組み作成、修学旅行、課外授業の企画・実施等に関するアドバイス
- ・ユネスコスクール申請の相談、支援、学校間交流の支援 等

<企業関係者の皆様>

- ・ESD/SDGs に関する企業の社員研修、人材育成の仕組みづくり
- ・企業として本来事業に ESD/SDGs を取り入れるための仕組み、評価制度づくり等のアドバイス

<自治体関係者の皆様>

- ・SDGs/持続可能な地域づくりのための講演、イベントの企画運営
- ・自治体職員研修、人材育成の仕組みづくり
- ・SDGs 未来都市への申請の相談、申請の支援 等
- ・政策に ESD/SDGs を取り入れるための仕組み、評価制度づくり等のアドバイス

【お問合せ】

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201
 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)
 Tel: 03-5834-2061 / Fax: 03-5834-2062 / Email: jimukyoku@esd-j.org
 Website : <https://www.esd-j.org/>